

第2部 ペルシア港湾都市にみる対ヨーロッパ文化接触の形跡をめぐって(アラビア海の文化誌 / アラビア海東域の港湾都市をめぐる文化・民族複合の実態調査編)

雑誌名	東西南北 別冊04
巻	04
ページ	59-59
発行年	2002-12-15
URL	http://id.nii.ac.jp/1073/00004414/

ペルシア港湾都市にみる対ヨーロッパ文化接触の形跡をめぐって

アラビア海からオマーン湾そしてヘルシア湾沿岸地域に点在する港湾都市を対象に、ホルトガルをはじめヨーロッパ諸国との接触からうまれた有形・無形の外来文化の痕跡を確認することを目的として、イラン調査グループの四名は、二〇〇二年二月一四日から二六日までの期間、

ヘルシア湾岸に点在するホルトガル時代の遺跡調査およびその文化遺産確認を主眼とする踏査を行なった。

ここに、全三部からなる報告を行なう。

はじめに『調査活動の概要』で、グループとして踏査内容全体の報告を掲げ、

『バルデスターンのパン焼き』と『マクラーン海岸の南蛮人とそのイメージ』では、

それぞれ食文化や口承伝統のなかに、同様のテーマを探索した個別踏査からの成果を問う。

